

小学校4年 だれでもできる だれでもわかる 放送教育

埼玉県草加市立栄小学校 内山 真実

【実践報告の概要】

NHK for Schoolには、多くの番組やクリップ動画がある。児童が番組を見る姿は真剣で、まるで動画の中に入ったように反応する。そして見ているうちに、何かはわかってきたり、疑問が生まれてきたりしていく。埼玉県放送教育研究会では、児童の学ぶ喜びを大切にしている。番組視聴により、クラス全体の知識の土台がつけられ、番組を見ている間の自己対話、番組を見終わった後の他者対話により一人一人の学びを深めていくことができる。だれでも明日からすぐに取り入れられるのが放送教育だ。

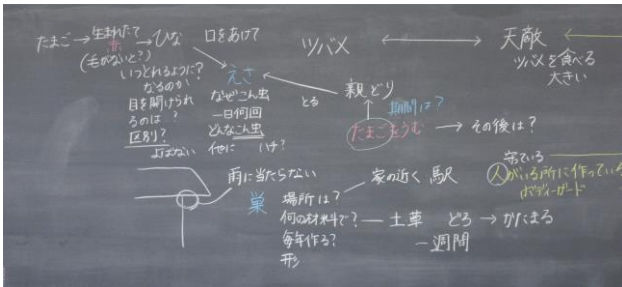
【取組の具体】

児童とともに板書をつくる

○「ツバメがやってきた」(5月)

番組を視聴後、わかったことや疑問に思ったことを共有する機会を与える(空発問)。発言された内容を板書上で整理し、児童の発言をつないでいく。どの考えも受け容れ、板書することで、安心して発言できるようにしている。

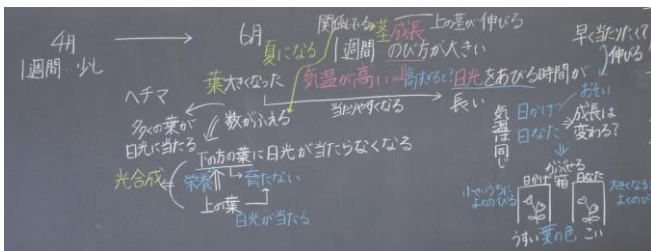
この学習では、ツバメの巣作りやひなを育てる親鳥の様子から玄関の軒下に巣をつくる理由に考えが広がっていった。



学習の導入・予想の手がかりにする

○「夏になると…?」(7月)

導入で見せることで新たな疑問をいただいたり、自分たちの育てているヘチマの育ちについて予想を立てたりすることにつながった。



実験後のたしかめとして視聴する

○「金属が大きくなる?」(12月)

実験後に視聴することで、結果のたしかめになった上、生活の中で現象の利用についての知識が加わった。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組 理科『ふしぎがいっぱい』

- ひとみちゃん(吉田仁美さん)と一緒に不思議を探し、その理由を実験する流れで、ストーリー性がある。そのため児童と一緒に疑問をもち、現象を理解しやすくなっている。
- 早送りで植物の成長や月の動きを見たり、植物や動物に接近して観察ができたりと映像ならではの良さがある。
- 学校内にはない本格的な実験装置を使った実験を視聴することで、疑似体験的に学習できる。
- たくさんの要素がちりばめられているため、児童が様々な視点から発表できる。

【本実践における工夫点】

発問の工夫・構造的な板書

番組を視聴した際には、思ったことや考えたことを自由に発表できるようにした。発表内容は黒板で整理し、児童の発表をキーワード化したり、関連する言葉を線でつないだりして構造的な板書になるようにした。

計画的な番組視聴

単元の導入として視聴させる他にも、実験後の視聴により理解を深められるようにするなど、単元の中で視聴するタイミングを計画的に行った。

【本実践の成果○と課題●】

- 番組視聴を続けていくことで、発言をする児童が増えてきた。構造的な板書により、児童の中でも関連する考えを板書の中から探すことができるようになってきている。
- 活用しやすい理科や社会、道徳以外にも放送教育の可能性を見いだしていきたい。